



おかむら通信 144号

平成 29 年 4 月号



みなさま、まだ寒い日が続きます。体に気を付けて毎日を過ごしてください。

●今月の言葉「 FORSEE 先を読む、」 医療において・人生において・仕事において・国の行く末について この現代ほど、この行為が人々にとって必要で、大事なことではないだろうか？ 某所 ある人による

●院長から



① 精神疾患 ひとの心が疑い深くなったり、妬みの心がでて、人の足をひっぱったり、些細なことを利用してひとを傷つけたり、が多くなってませんか？ 確かに今、何かおかしいですね。精神疾患でも、良質のものと、悪質なものがあるのですね。

② ニセ医学について 疑似科学という言葉をご存知ですか？ ひとはどうしても、科学的な医学からはずれて、巧妙なニセの医学に騙されるものなのかな？ アップルを作ったスティーブ・ジョブスの例は有名ですね。治療可能なすい臓がんを悲観して民間医療に走り死期を早めてしまいました。

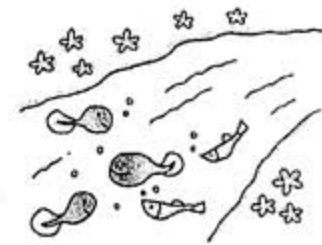
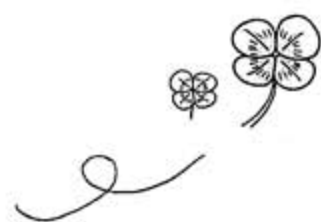
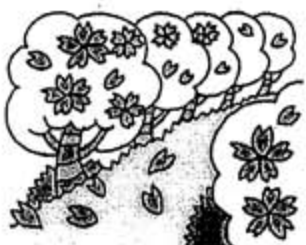
③ 平均的で、健康と思われている方にも、いくつかの未病が隠れているのをご存知ですか？

「未病」という言葉は日本ではまだ聞き慣れない言葉かもしれませんが。この言葉は 2000 年前の後漢の時代に、中国最古の医学書とされる「黄帝内経」にはじめて見られます。このなかで、「未病」とは「病気に向かう状態」を指し、この未病の時期を捉えて治すことの出来る人が医療者として最高人（聖人）であるとかがかれています。

④ まだまだ「突発性難聴」で治らずに苦しんでおられる方々が多いようです。星状神経節神経ブロックを行うことにより、かなり軽快、もしくは治ってしまうので、ぜひこの治療を受けてください。

⑤ インシュリン治療の効果について 一日 1 回法が注目されています。わりと楽に自分で注射をうてて、糖尿病のコントロールがたいへんよくなっています。

⑥ 医療は 芸術だ ドイツの医療者の考え方です。医師と患者さんとの合同作業とすると、ある意味、哲学かもしれません。なんでも一緒にやってゆくのです。





⑦ 当院の PACS について。高度な医療を推し進めるための道具です。ここに XP 装置、64 列CT、デジタル超音波、エラストグラフィー、経鼻内視鏡、心電計がつながっています。診察室ですぐに診断、読影、そしてITの情報共有に使えるのです。

⑧ 便秘のコントロールについて 院長の考え方。毎日ちよろちよろ下剤で便を出すのではなく、一度、多めの下剤で、できればいっぺんに結腸の便を出してしまう、というやり方です。月に1回くらいやると、たいへん便通が良くなりますよ。

⑨ 治療の極意について 先ほど言ったように、一生懸命な医療人と一生懸命な患者さんが、ともに協力してなす技です。一方的に細かいところを非難したり、上から目線で適当に仕事するのは180度違うやり方です。

⑩ 脳梗塞の初期は、ほとんど症状がありませんね。当院の64列CTで何通りもの画面でご覧になった方はお判りですね。小さい点々に見える「ラクナ」俗にいう赤ちゃん梗塞を発見しても、何の自覚症状もありませんね。

⑪ がんの一生について 画像などでいくら小さながん病変を発見しても、それはものによってはすでに何十年もの歴史を経て存在する、実は最後の時のものなのです。また当院で、肺癌などでごく小さな腫瘍を発見しても、大きな専門病院でもどちらとも言えず、しばらく様子観察になることもあります。

⑫ 人間の体力、精神力が だんだん落ちてきている方が増えてきています。まじめな、頑張り屋さんに多いようですね。日本の歴史の中で、今はあまりよくない環境の中に私達は存在しているといえるのではないのでしょうか。



●院長の仕事

- 01/ 松戸市小児夜間急病センター 勤務 午後8時～ /市立病院
- 14/ 日立遠藤さん、新型CTとPACSについて /当院
- 16/ ヒッポ・ファミリークラブ 岩佐さん、中山さん 松戸中央RC創立35周年記念式典 打ち合わせ
- 27/ 当院カンファレンス (昼) フジフィルム と PACSについて(夕)



皆さん、お花見には行かれましたか？
 美しい風景を眺めていると、心が和らぎますね。新緑の季節が楽しみです。
 早晚冷えますので、お身体を大切に。。。

